

鋭い脚で馬群を抜けゴール メイショウマンボ号

優駿牝馬（オークス） 優勝

5月19日に東京競馬場で開催された中央競馬のG1レース「第74回優駿牝馬（オークス）」で、高昭牧場（上山泰憲社長）生産のメイショウマンボ号が優勝。創業以来初のG1勝利に同牧場では大きな喜びに沸きました。

この日、社長の泰憲さんは東京競馬場へ応援に出向き、長男の貴永さんが祖母宅でテレビ観戦。メイショウマンボ号は第4コーナーまで好位置、直線に入り鋭い脚で馬群の中を一気に抜け出し、他の馬を寄せ付けずゴール。

「先頭に位置してからスピードが衰えずいけると感じたが、ゴールの瞬間、頭の中が真っ白になりました。ファンの皆さんに印象に残る馬になってほしい」と話す長男の貴永さん。

今回の優勝に、上山社長の弟の上山浩司さん（三石川上牧場社長）が祝福に駆けつけ、「兄弟でオークス制覇した。メイショウマンボは内に秘める力があり、今後も期待しています。これで少しでも地域が元気なつてくれれば」と喜びを話してくれました。

レース終了後、同牧場には多くの関係者らが祝福に駆けつけ、笑顔で万歳し、メイショウマンボ号の優勝を喜びました。



大勢の来場者が桜まつりを楽しむ

第46回優駿の里浦河桜まつり

5月11日〜12日、第46回優駿の里浦河桜まつり（浦河観光協会主催）がうらかわ優駿ビレッジアエル中庭特設会場で開かれ、2日間あわせて約3500人の来場者でにぎわいました。

今年の桜並木は、気温の低い日が続いたこともあり、開花日が遅れ、花のない桜まつりとなりました。

それでも、まつり会場内では、ステージの催しや野だて、ポニー乗馬、売店の客入りでにぎわいをみせてい



浦河桜まつり会場内

ました。恒例の「かに鍋無料サービス」や今回初の「桜ますちゃんちゃん焼き無料サービス」は、すぐになくなってしまふほどの大人気。

毎年行っている「夜桜ライトアップ」も5月9日から5日間実施の予定が、開花の遅れから19日まで延長されました。最終の土日は、町内外から訪れる車が途切れなく行きかうなど、例年になく大勢の花見客が、優駿さくらロードの夜桜を鑑賞し、春の訪れを感じていました。



開会式後、札幌浦河会の飯塚敏彦会長と北大植物園の増田清園長から、浦高創立80周年記念としてライラックの苗の贈呈があり、アエル中庭に植樹しました